



東郷小だより

第 2 7 号
平成 29 年 11 月 30 日
東郷小学校 校長室

★最後までがんばった★ 元気いっぱい走りました



元気いっぱいのスタート！

11月22日(水)、校内マラソン大会を行いました。心配していた天候にも恵まれ、子どもたちは元気いっぱいにマラソンコースを走り抜けました。

「わたしは、マラソン大会でがんばってはしりました。はしっているときはとてもくろしかったけど、さいご1いになれてうれしかったです。おかあさんが、はしっているとき『ゆみ、がんばれ！』といってくれてうれしかったです。(1年2組 赤塚結心さん)」



たくさんの応援に感謝！

「今年のマラソン大会は、4位でした。さいごのゴールでこけてしまって4位になりました。こけたことはしょうがないので、いいと思いました。3回目のマラソン大会で、すごく楽しかったです。(3年2組 小島惇矢さん)」



自分の目標に向けて！

「今年のマラソン大会の目標は1位でした。試走で1位をとり、本番で試走のタイムをこえる努力をしました。そして、結果は



いよいよ後半、あと一がんばり！

1位がとれて、タイムは試走よりも10秒縮めることができました。来年もがんばりたいです。(5年2組 青木稜真さん)」



マイ・ペースで！

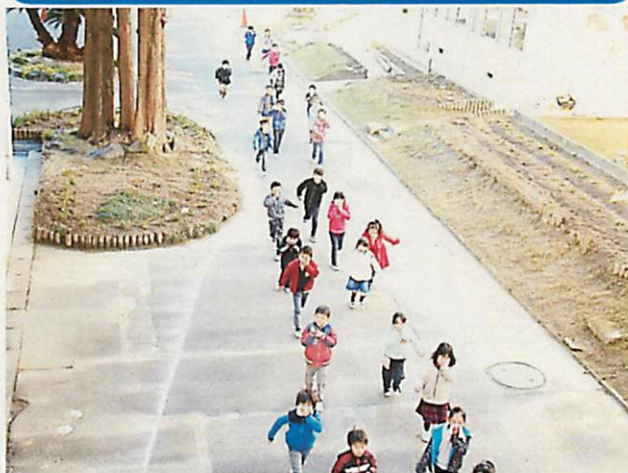
今年も、PTA役員・委員のみなさんに子どもたちの様子を見守っていただきました。ありがとうございました。声援を送ってくださった保護者のみなさんのおかげで、子どもたちは走り抜くことができました。ありがとうございました。



ゴールは目の前・・・がんばれ！



口と鼻をハンカチで！ 視界ゼロ◆煙に注意◆



11月24日(金)、理科室からの出火を想定して避難訓練を行いました。(=上写真)

6年生は、本館の特別教室からの避難でしたが、今年度3回目の避難訓練ということもあり、どの学年も短時間でスムーズに避難することができました。避難後は、尾三消防署の方に協力していただき、全学年が煙体験を

しました。(=下写真)

「ぼくは、ひなんくんれんのけむり体けんをしました。けむり体けんは、今年で2回目で



した。火事のはきは、しっかりと放送を聞いて動くということができました。今回のひなんくんれんは、しっかりと真けんにできたと思います。(4年1組 越手祥豪さん)

煙を吸い込まないように、姿勢を低くし、ハンカチなどで口と鼻を覆うことは理解していましたが、まわりの様子が全く見えなくなることは、煙体験ではじめて実感しました。壁伝いに手探りで、慌てずに進む。万が一のために心得ておきたいことです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◇東郷町青少年健全育成会表彰

善行賞 石川悠和 (6-3)

田澤有梨奈 (6-1)



◇校内マラソン大会

- 第1位 石井和緯(1-1) 赤塚結心(1-2)
 橋口弘樹(2-2) コザック絵莉(2-3)
 三鍋大心(3-2) 酒井 阜(3-3)
 鈴木胡太朗(4-1) 笠井唯花(4-2)
 青木稜真(5-2) 梅村 藍(5-2)
 鈴木 樟(6-1) 佐藤美月(6-3)

- [2位] 久保田成、加藤莉乃、高倉叶太郎、古田楓音、江上雄梧、野々山愛奈、橋口和樹、西尾心春、中村知磨、美濃羽ひかり、滝本資志、青山未希 [3位] 松山果生、吉井ひなた、谷地村夢叶、塩見初雪、高田健太、堀瑚々奈、石井奏和、石嶋袖乃、堀 馨太、山本歩璃、東郷佑哉、香山未来 [4位] 越手琉馬、成田奏、渡辺瑛祐、コザック希来、小島惇矢、中西水紅、石川心采、近藤妃夏、梶原日向、奥村なな、鶴飼太陽、小柴葉留 [5位] 小島琢矢、山本和奏、澤藤壱吹、加藤杏奈、田村幸陽、古川果南、河瀬惟天、山下樹里、小島遙太、阪本 悠、山本悠真、山田樹里 [6位] 川口 佑、小杉愛菜、佐野凌麻、江口心絆、

笠井敬太、横田未来、清田凌平、桑垣結野、横山統士、水野百萌、小島玲佑、岡田美瞳

- [7位] 安藤楓真、前田初音、鈴木寅太、磯村愛花、木村 蓮、石川玲葵、酒井空大、小池詩乃、秀島諒一、井上莉緒、渡辺圭祐、石嶋咲希 [8位] 高橋隼迅、曾我歩未、水野滉也、藤原つむぎ、夏目 權、服部心望、鶴飼 光和田美月、蛭谷 要、大原沙也、沓名皇汰、高村柚衣 [9位] 松岡翔吾、石川愛唯、市原遼大、丸本ちひろ、野々山悠真、武埜怜実、越手祥豪、浅井帆乃華、松山侑樹、中野遥妃、山口修平、近藤比紗乃 [10位] 松田周大、野本愛菜、中野隆玖、瀨本真花、池戸惺亮、野々山和花、加藤 暁、葉山里菜、細川稜桜、内田紋嘉、野々山智唯、酒井菜那

☆ 生まれてきただけでOK! ☆

少し前になりますが、次の新聞記事が目にとまりました。

・・・生まれたばかりの赤ん坊は皆「存在承認」がもらえます。「生まれてきただけで100%OK」という全面的承認です。

しかし、ほとんどの人の「存在承認」は、生まれてから数か月もすると忘れられ、それは「行動承認」に替わります。つまり、「何ができるようになったか」が評価の基準になっていくんです。

まずは「ハイハイ」。その次は「立っち」。その次は「歩けた」。幼稚園に入ったら、「お友だちと仲良くできた」「先生の言うことをちゃんと守れた」。小学校に入ったら「頑張った」「努力した」など、子どもは「行動承認」で塗り固められていきます。

そんな中で、うまくできない子どもがいます。それでも愛がほしい彼らは一縷の望みをかけて親や先生を試します。いじめをしたり、校則を破ったり、悪いことをするのは、「こんな自分でも愛される価値はあるのか」と。しかし多くの場合、そういう子どもたちの「存在承認」が満たされることはありません。なぜか。大人自身が「存在承認」という価値観を持っていないからです。

たとえば今、誰か私にタワシをくれませんか？誰もくれませんか。なぜなら今、この場にタワシを持っていないからです。持ってないものは人に与えることはできません。物理の法則です。

せめて社会に出るまでの間、週に一回でいいです。子どもに次の言葉を投げかけてください。

「おまえがどんな行動を取ろうが、どんな成績だろうが心配するな。おまえは生まれてきた、それだけで愛されているから」・・・

(「みやざき中央新聞 8.28」より)

この記事を読み、思わず自分のことを振り返りました。子どもはもちろん、パートナー、職場の同僚に対して、自分は愛ある言葉をかけ、愛ある人間関係を築こうとしているだろうか・・・

ここでの愛は「存在承認」です。これは子育てだけの話ではなく、人間の本質に関わる話だと思います。